

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科		
科目名称	幼児と言葉					授業形態	講義		
科目コード	750190	単位数	1単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美							ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、保育者として子ども理解に基づき、幼児の言葉の育ちを援助するために必要な知識・技術・省察力を身に付けることである。 幼児期の言葉は、人との関わりや生活・遊びの中で育まれるものであり、領域「言葉」のねらいと内容を踏まえて、その過程を具体的に捉えることが求められる。 本授業では、人間にとっての言葉の意義と機能、幼児の言葉の発達過程、言葉への関心や感覚の育ち、さらに絵本や物語などの児童文化財の意義について学ぶ。そのうえで、具体的な事例や演習を通して、言葉の育ちを支える保育者の関わりや環境構成について考察し、保育実践へとつなげる。								
関連する科目	事前に「保育者論」「保育・教育課程論」を受講しておくことが望ましい。 同時に「保育内容総論」を、履修後に「保育内容指導法（言葉）」「幼児理解」を受講することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	各回とも講義と演習を組み合わせで行う。 前半：講義（理論・制度・概念の理解） 後半：演習（事例分析、グループディスカッション、言葉遊び等） 自身の経験や観察をもとに言葉の育ちを捉え直すことを重視する。 毎回の授業後には「学習の記録」を作成し、学びの振り返りを行う。 必要に応じて小課題・レポートにより理解の定着を図る。								
授業計画 【第1回】	言葉の意義と機能①－人と言葉の関係 人にとって言葉とは何かを捉え、領域「言葉」の基本的な視点を理解する。								
授業計画 【第2回】	言葉の意義と機能②－話し言葉と伝え合い 幼児が生活の中で経験する「言葉によるやりとり」とその楽しさを具体的に捉える。								
授業計画 【第3回】	言葉の意義と機能③－書き言葉と文字への気付き 文字の意味や役割への気付きがどのように育つのかを事例から理解する。								
授業計画 【第4回】	言葉の発達と人との関係 言葉の発達過程を踏まえ、対話や関係性の中で言葉が育つことを検討する。								
授業計画 【第5回】	言葉に対する感覚を豊かにする実践①－言葉の楽しさ オノマトペや言葉遊びを通して、言葉のリズム・響き・面白さを体験的に理解する。								
授業計画 【第6回】	言葉に対する感覚を豊かにする実践②－保育者の関わり 言葉遊びや日常のやりとりにおける保育者の援助のあり方を考察する。								
授業計画 【第7回】	児童文化財と子どもの言葉 絵本や語りなどの児童文化財の特徴と意義を理解し、保育実践への活用を検討する。								
授業計画 【第8回】	言葉をめぐる現代的課題と保育の構想 現代社会における子どもの言葉をめぐる課題を踏まえ、言葉を育む保育のあり方を総合的に考える。								
授業計画 【第9回】									
授業計画 【第10回】									

授業計画 【第11回】	
授業計画 【第12回】	
授業計画 【第13回】	
授業計画 【第14回】	
授業計画 【第15回】	
授業の到達目標	1. 人間にとっての言葉（話し言葉・書き言葉）の意義と機能、および幼児の言葉の発達過程について理解し、説明することができる。 2. 生活や遊び、人との関わりの中で幼児の言葉が育つ過程を具体的な姿に即して捉えることができる。 3. 言葉の感覚を豊かにする遊びや言語環境の意義を理解し、子どもの経験との関連から考察することができる。 4. 児童文化財の特徴と意義を理解し、それが子どもの言葉の育ちとどのように関わるかを説明することができる。 5. 領域「言葉」のねらいおよび内容の基本的な考え方を理解し、幼児の言葉の育ちとの関連を説明することができる。
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	各回のテーマに関する資料（教科書・配布資料）を事前に読み、内容の要点と疑問点を整理する（1時間程度）。あわせて、日常生活や実習等での経験における言葉のやりとりに関心を向け、具体例を準備する。
授業時間外学習【復習】	授業内容を整理し、「学習の記録」に基づいて自らの問いを深める。 関連文献や実践事例を参照しながら、言葉の育ちと保育者の関わりについて理解を深める（30分程度）。
課題に対する フィードバック	提出課題や「学習の記録」の内容を踏まえ、次回授業において全体に向けた講評を行う。 代表的な考えや特徴的な視点を取り上げ、共有する。
評価方法・基準	1) 学習への取り組み「学習の記録」、小テスト 30% 2) レポート 20% 3) 最終試験 50%
テキスト	『保育所保育指針解説』厚生労働省（2017）フレーベル館、（320円＋税） 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（2017）フレーベル館、（240円＋税） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）フレーベル館、（350円＋税）
参考書	必要に応じて紹介する。
備考	